

こんにちは! 南部町立図書館です

6月の休館日
5・12・19・26・30

ご存知でしたか? 「子ども読書の日」

フレッシュな気分です。いっばい4月・5月は、本にちなんだ記念日があります。

- 4月23日 「子ども読書の日」
 - 4月23日～5月12日 「こどもの読書週間」
 - 5月 「図書館振興の月」 です。
- 図書館では「こどもの読書週間」の期間、本に親しんでもらおうと小学生を対象に「図書館クイズ」を実施しました。



欧米、特にスペインでは4月23日は「サン・ジョルディの日」といって本を贈る習慣があるそうです。又シェイクスピアとセルバンテスの命日にちなんで、ユネスコではこの日を「世界・本と著作権の日」としています。この機会にご家族で本を読んでみませんか？

図書館は楽しい

図書館の上手な使い方 VI
自分で本を探したい!



パソコンの画面にタッチするだけで操作できます。

図書館の書架を彷徨っても、目当ての本が見つからない時、どうなさいますか? 「ここには所蔵してないのかも…」とあきらめないで、カウンターにご相談ください。「自分で探したい!」という方には利用者用の蔵書検索システムがあります。書名・著者・内容から検索できます。でもやっぱり見つからない時はカウンターへお気軽に!

新刊案内 ~ご紹介はほんの一部です~

文学

- 『空は、今日も、青いか?』
- 『犬のしっぽを撫でながら』
- 『私の中に答えはあるか』
- 『嫁盗み』
- 『紙魚家崩壊』
- 『逃亡』
- 『にわか大根 猿若町捕物帖』
- 『星に願いを』
- 『愛のあとにくるもの』
- 『陽の子 雨の子』
- 『名探偵コレクション! 線の巻』
- 『愚行録』
- 『Sokki!』
- 『異国の迷路』
- 『河畔に標なく』
- 『恋愛事情』
- 『イルカ』

- 石田 衣良
- 小川 洋子
- 内田 春菊
- 逢坂 剛
- 北村 薫
- 小林 弘忠
- 近藤 史恵
- 庄野 潤三
- 辻 仁成
- 豊島 ミホ
- 仁木 悦子
- 貫井 徳郎
- 秦 建日子
- 坂東 真砂子
- 船戸 与一
- 藤田 宜永
- よしもと ばなな

その他

- 『すてきなあなたに 5』 大橋 鎮子 編者
- 『せっちゃんのごちそう』 辛 淑玉
- 『へボン博士の愛した日本』 杉田 幸子
- 『今がわかる時代がわかる世界地図2006年版』
- 『韓国一周友情ウォーク』 金井三喜男
- 『少年裁判官ノオト』 井垣 康弘
- 『新入社員が知っておくべきパソコン文書作成のオキテ』
- 『野の花だより三六五日 上』 池内 紀
- 『和のノート』 木村衣有子
- 『決定版365日野菜のおかず百科』 辻クッキングスクール 監修
- 『イギリス庭園紀行』上・下 邸 景一ほか
- 『繪本 平家物語』 安野 光雅
- 『がばいばあちゃん』 島田 洋七

児童書

- 『サッカーの常識』 田島幸三 監修
- 『火と炭の絵本 火おこし編』 すぎうらぎんじ 編
- 『奈緒のふしぎ物語』 竹内もと代
- 『お宝探偵団とあぶない魔王』 楠木誠一郎
- 『荒野のマーくん』 花形みつる

絵本

- 『わたしのかさは そらのいろ』 あまんきみこ
- 『こぶたのプウタ』 神沢 利子
- 『さかなだ さかなだ』 長野ヒデ子
- 『ワイズ・ブラウンの詩の絵本』 マーガレット・ワイズ・ブラウン



『斉藤孝の音読破6 羅生門』
斉藤孝 校注・編集

音読シリーズの第6弾は芥川龍之介。音読すると本の新しい世界が発見できるかもしれません。



「東西町の話満載の4月号」

地区の話題を毎月定期的に情報提供する事で、東西町のすばらしさを一人でも多くの方々に知ってもらえたらと取り組んでいます。

4月号では、地区の話題として、「東西町の新1年生」と青少年育成会主催の「リサイクル活動」を掲載しました。

東西町地区公民館

東西町地区公民館では、毎月館報を発行しています。

毎月発行の公民館報

ちからもちのおさんじさん



ある大安吉日、東長田の金山地区に出雲の方から高貴なお姫様が嫁いで来られました。名前は眞子様と言われ、まるでお雛様のような雅な方でした。この眞子様にお供してきた腰元が、身の丈1m80cm近い大変な働き者で、力持ちのおさんじさんです。

綿みたいな雲がポツカリ浮かぶ晴れた日に、お百姓が2人、ご主人に水汲みを申し付けられ、川上からの長い水汲みの道のりに疲れてへばっていました。これを見たおさんじさんは、「こらさあつ！」と、なんと水のたつぷり入った桶4つを一気に担いでスタコラサッサと笑顔で運んでいきました。なんともすごい力持ちです。

おさんじさんの武勇伝はそれだけではありません。

ある時、都から訪れた大切なお客様が立派な庭を眺めながらの行水を楽しんでいると、鎌倉山の上空がにわかには曇り、突然の大雨が降って参りました。おさんじさんは「さあ、大変！」と駆けつけて、お客様を行水し

ている鹽ごとヒヨイと持ち上げると、エッサエッサと軒下へと運びました。「お客様、何も恥ずかしがることねえだ！これには飛んでた鴉もびっくりしましたなあ」

おさんじさんが金山に来てから初めての秋祭り、祭り見物の眞子様のお供をするおさんじさんも祭囃子に心をウキウキとさせています。美しい眞子様は、どこへいきても人々の目を引きました。すると悪いことにごろつきどもが眞子様からんできました。「おひいさまに悪さする奴あおらがゆるさねえだあ！」とおさんじさんはごろつき4人を東長田川に叩きつけました。この事件でおさんじさんは「金山の仁王様」と呼ばれるようになり、一躍時の人となりました。

男達が腐れた牛のつなぎを作るのに難儀していると、見かねたおさんじさんは、原野の木を抱え込むと、えいっ！とばかりに引き抜いて、ドガン！と牛の牧場へ植え替えてしまいました。これには牛飼い爺やも大きな牛もびっくりこいた。

しかし、数々の怪力武勇伝はおさんじさんを幸せにはしなかった。あまりの豪傑ぶりにだんだんと縁遠くなってしまう、仕える眞子様は献身的な看病もむなく流行病で亡くなってしまわれ、おさんじさんは間もなくご主人から暇を出されてしまいました。

「なんでわしが！何も悪いことしてねえだのに！」おさんじさんは怒りにまかせて金山峠の山柿の木をくるりくるりとねじり曲げてしまい、それでも怒りは収まらず、腰を下ろしていた岩を拳でえい！と叩くと岩にポツカリ拳骨の穴が開きました。これが金山峠の「ねじり柿」と「こぶし岩」です。おさんじさんの心情を哀れんで、こぶし岩を庭前に据えたのが「生田家」であると言われています。

その後、おさんじさんは大山寺で尼となり、眞子様と瓜二つの尼僧に出会い、生きることにしあわせをかみしめて仏道三昧の日々を送り、多くの武勇伝を残して生涯を閉じました。

おしまい